

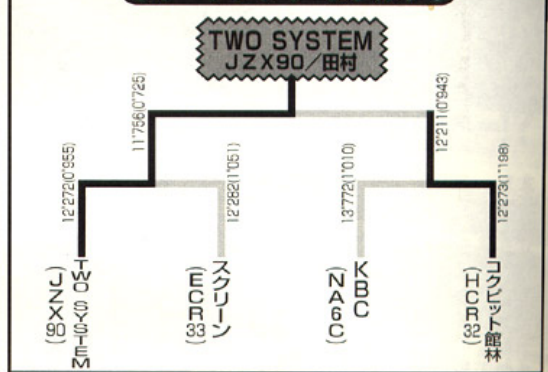
# FR-1

class

2500cc以下なら  
何でもアリのFR-1  
勝負の行方は  
如何に!?

排気量2500cc以下の車両で争われるのが、FR-1クラス。今回は残念ながら参加台数が寂しく4台だけの参戦だったが、熱いドラッグ魂は他のクラスと何ら変わらない。1JZとRB25の対決が見物であるこのクラス、11秒台中盤がトップクラスのボーダーラインなのだ。

## ●トーナメント・リザルト●



6発ターボ勢に対抗する4発ポルトオンターボの闘い!!

トーナメントにはTWO SYSTEM、スクリーン、KBC、コクビツ館林、何れ劣らぬ強豪がストリートマシンで参戦。参加台数から考えて、2回勝ち抜けは優勝出来るとあってか参加者のテンションは、傍目からでもわかるほどに高い。まずは、TWO SYSTEMのJZX90対スクリーンR33の1回戦から始まった。ほぼ同時にスタートした2台、中盤の330フィート通過時にはTWO SYSTEM JZX90がコマ3秒の大量リードで勝負アリかと思われたが、700psのピークパワーを発揮するスクリーンR33が後半グイグイまくった。結果は捲りも届かず1/1000秒差でTWO SYSTEM JZX90の勝利。フリー走行から11秒台を記録していた2台の好勝負だった。1回戦の第2カードは、KBCロードスター対コクビツ館林R32。6気筒対4気筒のストリートでも良く見られる対戦だが、apゼロロッドでは珍しいかもしれない。スタートで、ややスクリーンがコクビツ館林R32だったが一気に捲り、決勝に駒を進めた。その決勝は、スタートのリアクションからTWO SYSTEM JZX90が逃げ、見事11秒台中盤で優勝を決めた。



JZX90チェイサーというちょっと意外な車種で見事FR-1クラスの優勝を決めたのは、TWO SYSTEMの田村さんだ。

### T45Sを採用した独自の方向性で勝負をかける

#### 「TWO SYSTEM JZX90」

トーナメント戦を制したTWO SYSTEM JZX90は今風のフルチューンというイメージよりも、むしろ的確に要所を押さえた完成度の高いポイントチューンが成されているといった方が正確だろう。独特のトルク特性を持っているタービン・T45Sをチョイスし、トルクバンドを有効に扱うために272/272カムとRB26用の東名バルブスプリングで回転に追従させている。燃料は、メインインジェクターの380ccにプラスして追加インジェクター720ccを2本打っている。メインインジェクターと点火系は、オリジナルのコンピュータで制御されているのだが、追加インジェクターは独立したユニットでコントロールされている。昨今のフルコンプームの中、現在のハード中心のチューニングでは少々異端に写るかもしれないが、質実剛健、間違いのないフルコン全盛以前の定番マネジメント法なのである。今後、10秒台の闘いを視野に入れた方向性に期待したい。

FR-1は快速4ドアセダン  
JZX90チェイサーが制す!!

優勝



60feet	2"018
330feet	5"189
660feet	7"778
1000feet	9"945
1/4mile	11"756
終速	199.43
330-660	2"589
660-1/4	3"978

# TWO SYSTEM JZX90

Driver: 田村明

Best time: 11" 756